

## 我が家への来訪客に例えると。。。

- ▶ これまで、
  - ▶ 玄関から居間や応接間に通し、
  - ▶ そこで、お手伝いさんが用意したお茶を飲み茶菓子を食べながら、
  - ▶ 座敷越しに見える床の間の「掛け軸」や「壺」を眺めていた
- ▶ いまは、
  - ▶ 座敷に通して、床の間の真前で、
  - ▶ 主から「掛け軸」や「壺」の説明を受けながら、
  - ▶ ときには、直に壺の感触を確かめながら、うなっている

## この背景には。。。

- ▶ 旅行者ニーズの変化
- ▶ 従来の旅行スタイルに対する批判
  - ▶ 物見遊山、宴会型への批判
  - ▶ 学習要素、知的好奇心などの推奨
- ▶ 観光地側の事情
  - ▶ 地域のことをよりよく知ってもらいたい。
  - ▶ そして、理解してもらい、ほめてもらい、自分たちの地域の誇り、地域生活の自信としたい。
  - ▶ 観光産業を地域経済の起爆剤に！（観光客を案内するガイド業が成立！！）

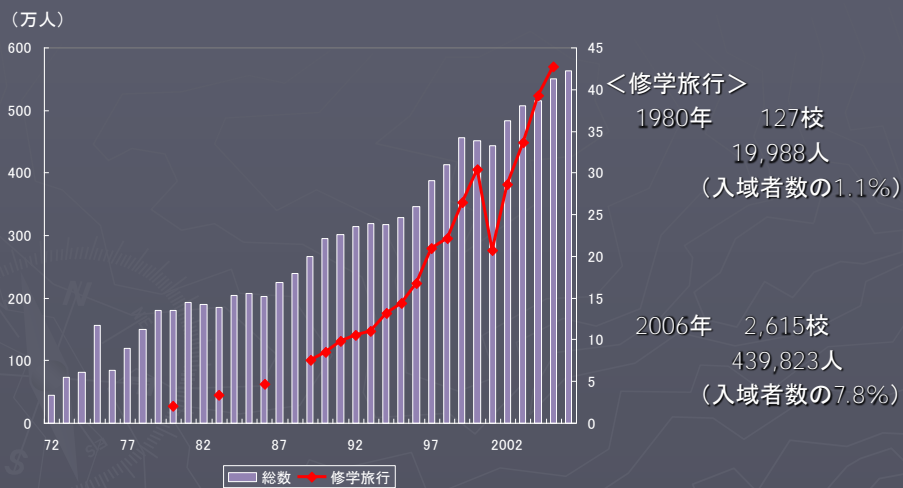
## ソフト産業としての観光業の発展

### ▶ 海浜・海洋レクリエーション

- ダイビング → ターゲットマーケットの拡大
- シュノーケリング → 自然度の高いところへ案内
- シーカヤック → //
- 磯遊び → エコツアー・環境学習



## その一例として： 修学旅行

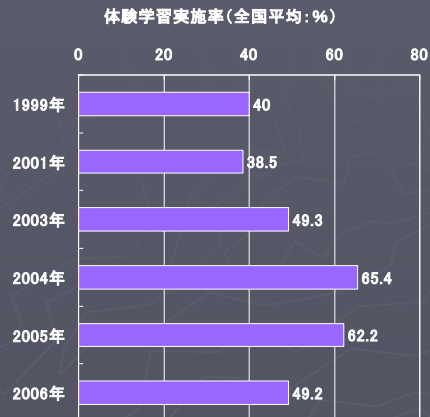


## 修学旅行急増の背景

### ▶ 学習効果を強く意識

- テーマ性
  - ▶ 国際
  - ▶ 福祉
  - ▶ 環境
  - ▶ 平和
- クラス別・班別行動
- 体験学習化

→ 海域を含めた自然地域  
をフィールドとして活用



資料: (財)日本修学旅行協会

## 新たな体験プログラムの開発ラッシュ

### ▶ 地域固有の体験プログラムを開発、売り込み競争

### ▶ 沖縄らしさ

- 地域の知恵
- イノーでの環境学習

→ 利用地域の拡大

→ 資源に配慮のない、利用方法の増大

→ 準備の少ない、事業者の増大(安全性にも懸念)

## いま、必要なことは

- ▶ 観光現象の急激な変化への対応
  - ▶ 施設開発の管理 → 利用の直接的な誘導へ
- ▶ 計画的な利用の誘導
  - ▶ 利用する場所、しない場所の計画
  - ▶ 利用の仕方のルール
  - ▶ 一歩進んで、保全のための具体的なアクション

## 地域資源の価値を核に考えた観光社会の仕組み

